

# 北八ヶ岳山行報告

2009年2月28日(土) - 3月2日(月)

メンバー：三枝良輔 (M3)

只左一也 (M2)

三谷知広 (M1)

1日目：茅野駅→(バス)→渋の湯→中山峠→  
東天狗岳→中山峠→高見石 (幕営)

2日目：高見石→麦草峠→ロープウェイ駅→  
北横岳→亀甲池→双子池 (幕営)

3日目：双子池→大河原峠→蓼科山→  
女神茶屋→プール平バス停→  
(バス)→茅野駅 (解散)

## 1日目 (2月28日(土))

起床 (前夜茅野駅泊)	05:30	
茅野駅	06:35 発	バス乗車
渋の湯	07:45 着	08:15 発
パノラマコース分岐	09:15 着	09:30 発
黒百合平	10:50 着	
中山峠	11:00 着	11:10 発
東天狗岳山頂	12:00 着	12:15 発
中山峠	13:00 着	13:20 発
中山山頂	14:20 着	
高見石小屋	15:05 着	(幕営)
		(歩行時間：5時間30分)

茅野駅から6時半の始発バスに乗るため、前日27日(金)の夜、茅野駅に集合して、駅前の屋根のあるところに寝袋を敷いて野宿した。寒天の産地になるような寒いところだが、この夜は暖かくて助かった。

翌朝5時半に起床して、朝食を取り、始発の渋の湯行きバスに乗り込んだ。私たちの他に、スノーボードとザックを担いだ4人パーティー1組と、単独行1人がいた。

渋の湯に向かう途中で雲の中に入ったが、次第に雲が切れて青空が覗き始め、渋の湯バス停に着くころにはすっかり晴れ上がり、真っ青な空が広がった。

渋の湯駐車場には登山客の車が何台か止まっていた。



前夜茅野駅に集合、茅野駅のバスターミナル前で野宿。  
気温が高くて寒くなかったのはありがたかった。



朝起きると、天気はいいが八ヶ岳の方は雲がかかっていた。



茅野駅から始発バスに乗る。私たちの他は、スノーボードとザックを担いだ4人組と、単独行が1人。



準備をして出発。



バスの終点、渋の湯温泉。すっかり晴れ上がり、真っ青な空が広がる。

バス停前で準備をして、黒百合平へ向けて出発。しばらくは尾根の北斜面を登る。トレースを外すと腰まで潜るほどの雪だったが、さすがに冬山入門の山域として有名な場所だけあって、道は雪が踏み固められており、アイゼンが良く効いて歩きやすかった。

登りはそれほどきつくなかったが、荷物がいつもより重く感じられ、早くも元気な二人から遅れがちになるが、夏の標準時間で尾根の分岐点に到着。



川を渡り、山道を登り始める。



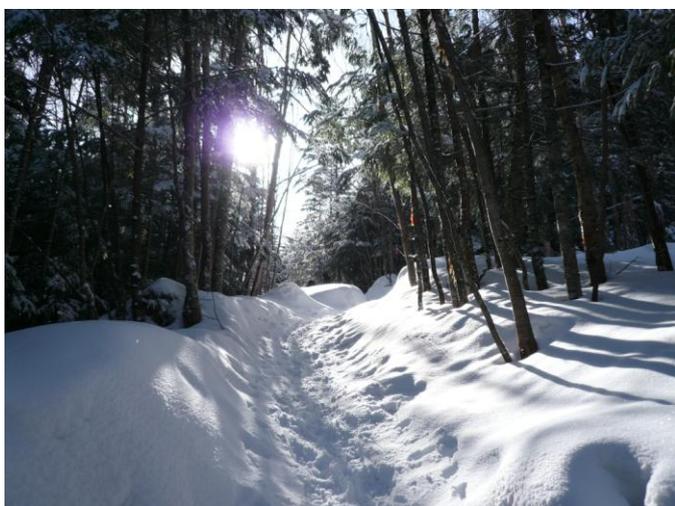
トレースを外すと腰まで潜るが、トレースはしっかり踏み固められ、歩きやすい。



道はなだらかだが、私はペースが上がらず、二人から遅れがちになる。



雪と戯れる三枝（左）と三谷（右）



尾根の分岐点に到着。



分岐点からは尾根筋のなだらかな道を進むが、やがて浅い谷筋の道となる。途中で何組かのパーティーとすれ違う。途中で振り返ると、乗鞍岳が雲海に浮かんでいた。歩きやすい道が続き、あっさり黒百合平に到着。小屋の前を通過して、中山峠へ。





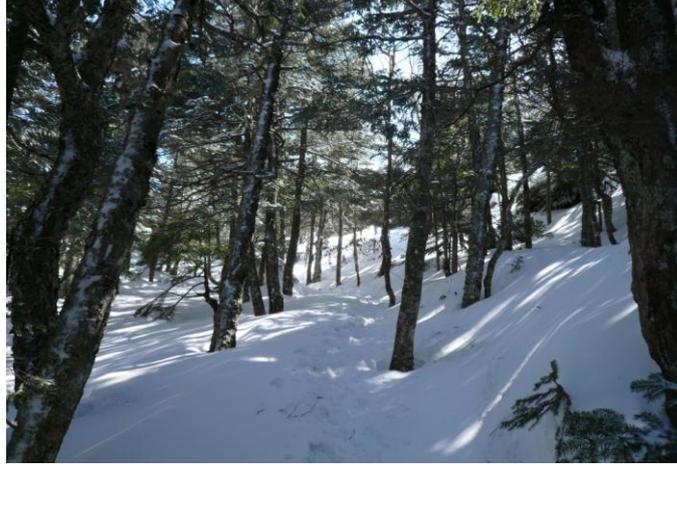
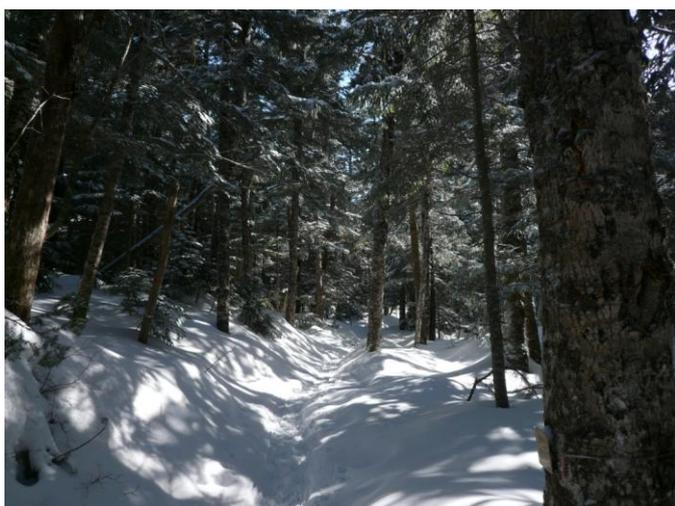
なだらかで気持ちの良い道が続く。



このあたりの針葉樹の原生林は雰囲気が良い。シラビソが多い。



唐沢鉱泉への分岐。右へ行くと唐沢鉱泉。





後ろを振り返ると、乗鞍岳が浮かんでいる。天狗岳からの展望を想像して、期待がますます膨らむ。

通年営業の黒百合ヒュッテ。



ヒュッテの前の景色



峠から急斜面を少し登る。



中山峠に到着。



開けた場所に出た。左が東天狗岳、右が西天狗岳。

中山峠で荷物を下ろし、空身で東天狗岳へ向かう。やや急な斜面を少し上ると、開けた雪原に出た。正面には、ごつごつした東天狗岳と、対照的にたおやかな西天狗岳が並んでいる。上空には薄い雲がかかり始めていたが、高度を上げるにつれて遠くの山々がくっきりと見渡せるようになってきた。

トレースを辿って行くと、道が尾根を離れて東天狗岳の西斜面をトラバースし始めた。雪が非常に少なくてしまっており、雪崩れる心配がなかったため、そのままトレースを辿って行くと、東西天狗岳の間のコルに出た。正面に南アルプスや南八ヶ岳主脈が姿を現した。空気が澄んでいるためか、とても近く感じられる。

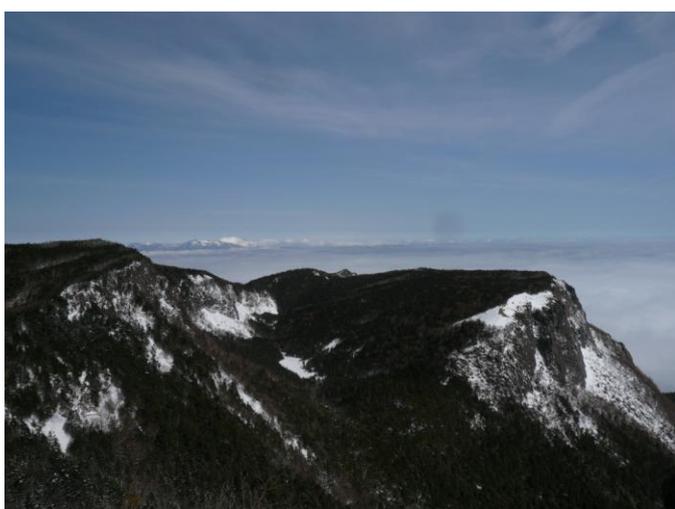
東天狗岳山頂を目指して尾根を登り、ちょうど正午に山頂に到着。期待通りの大展望が待っていた。



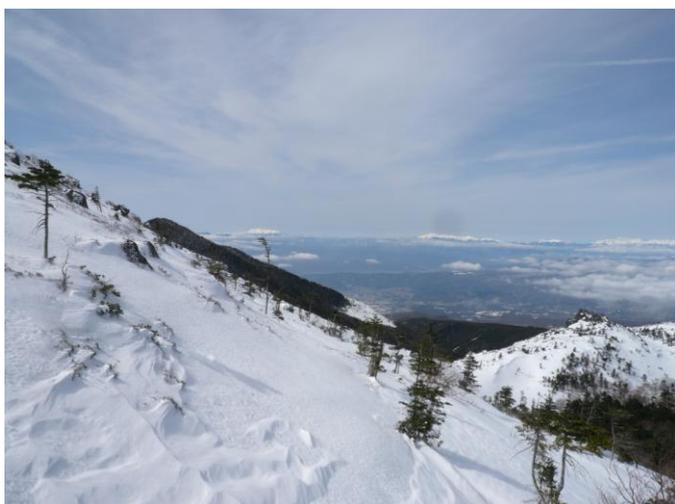


しばらく岩場が続く。

右手を見ると、真っ白な北アルプス（右）、乗鞍岳（中央）、御嶽山（左）が連なる。



遠くは浅間山。右は稲子岳。





コルから見た南八ヶ岳の山々。中央は赤岳、その右は阿弥陀岳、左のなだらかな山は硫黄岳。



東西天狗岳の間のコルに出た。

東天狗岳



正面には南アルプスが近い。右から仙丈ガ岳、甲斐駒ヶ岳、北岳。

西天狗岳



東天狗岳山頂を目指して急な尾根を登る。



正午、東天狗岳山頂に到着。

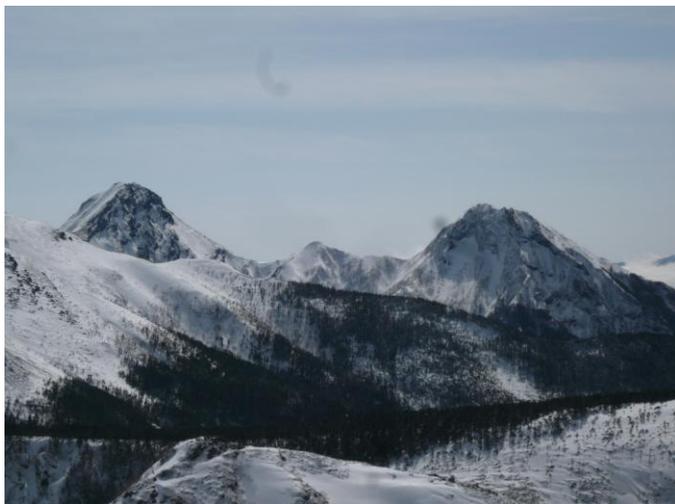
左から M3 三枝、M1 三谷、M2 只左。



南の眺め。南八ヶ岳と南アルプス。



南アルプス遠望。右から仙丈ガ岳、甲斐駒ヶ岳、北岳が並ぶ様子が美しい。



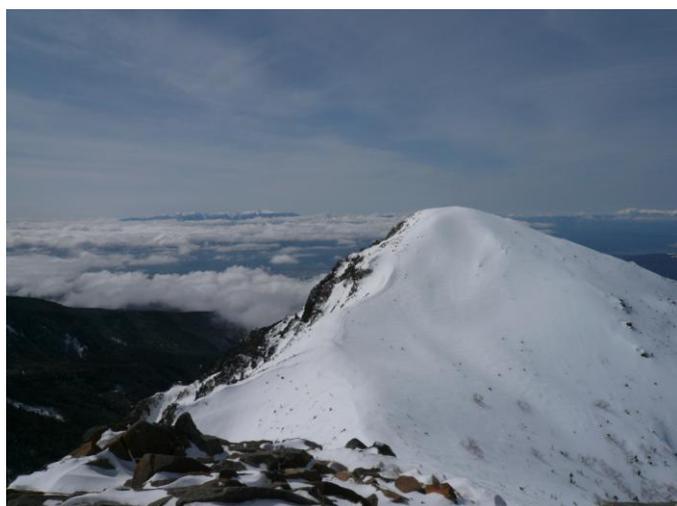
赤岳（左）と阿弥陀岳（右）



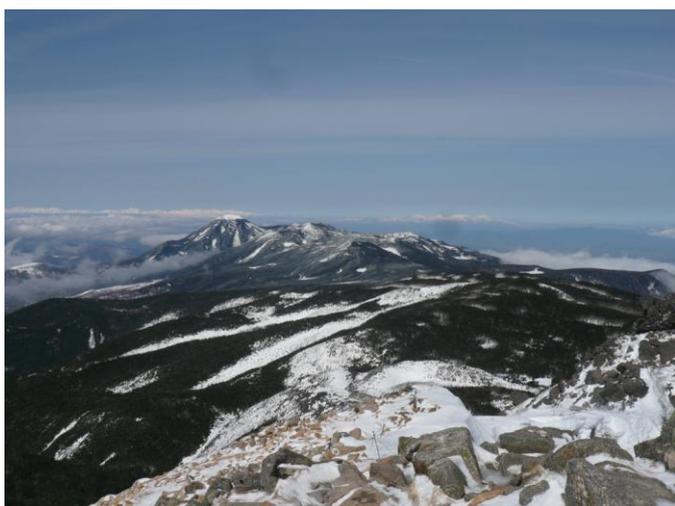
浅間山周辺の遠望



北西の眺め。遠くは北アルプス全山。右は蓼科山。



西天狗岳。遠くは中央アルプス。



これから縦走する北八ヶ岳全体が見渡せる。中央右には妙高・火打の山域もくっきり。左遠方は北アルプス北部。



中央アルプス全山。

雄大な展望を存分に楽しみ、中山峠に引き返すことに。下りは尾根筋のこれもしっかりしたトレースを辿る。下り始めると、急に周囲の雲が上昇し始め、遠くの山々は次第に雲に隠れ始めた。



雄大な景色を眺めながら下る



稲子岳の南壁。遠くは浅間山。



雲が下から湧き上がって、遠くの山々は次第に見えなくなってしまった。



槍穂高連峰が近い。





東天狗岳山頂を振り返る。

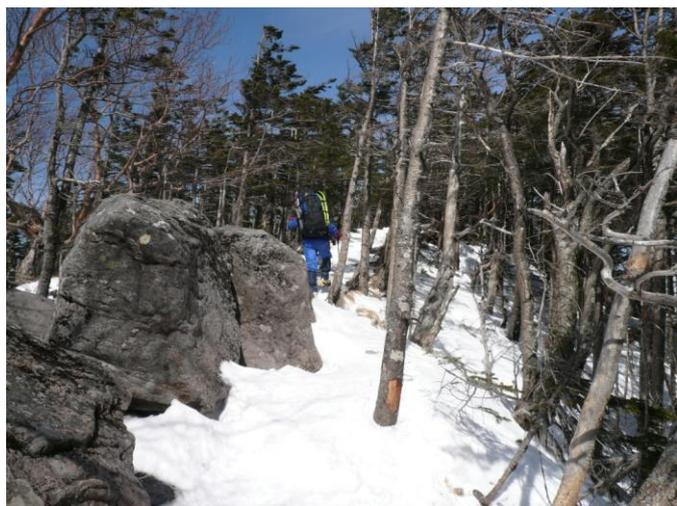




中山峠に戻った。

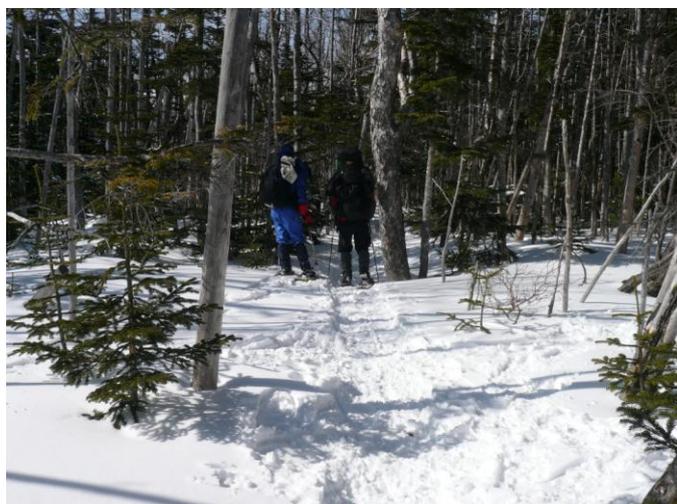
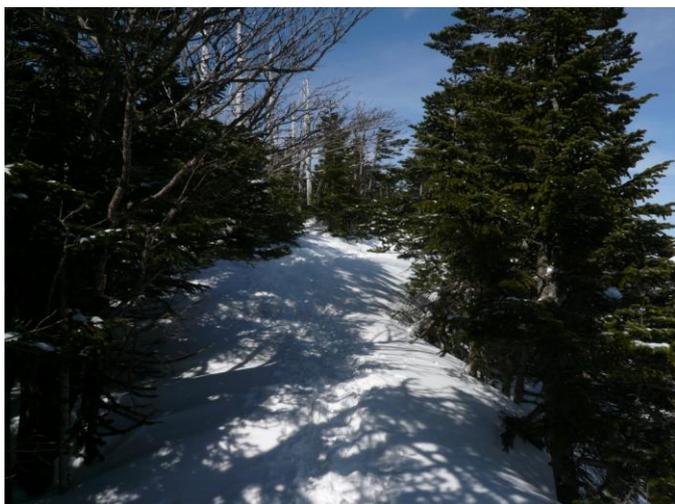


中山峠に戻り少し休憩。軽く食事をとり、再び重い荷物を担いで宿泊予定地の高見石を目指す。少し上ると道が平坦になったので、ここでスノーシューに履きかえることにした。3人とも初体験。荷物を背負って歩きだしたが、ワカンと比べても潜り方ははるかに少ないし、何とも言えないふわふわと浮いている感じで、気持ちが良い。トレースのついていない深い雪の中に入っても、ほとんど潜らない。これには特に三枝が大喜びで、わざとトレースから外れて深雪の中を歩いて行く。2人とも楽しくて自然にスピードが出てしまうようで、どんどん行ってしまおう。





3人ともスノーシューは初体験。



スノーシューで歩き始めたが、その楽しいこと！



スノーシューに履きかえる。



2人は楽しくて仕方がないらしく、どんどん行ってしまった。



天狗岳にも雲がかかり始めた。



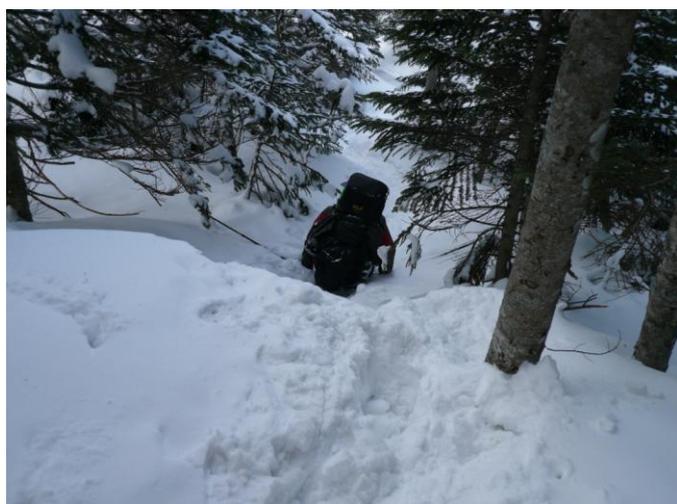
中山 (2496m) の手前に少し上りがある。まだスノーシューに慣れず、登りはちょっと苦しかった。



中山山頂。開けた好展望の山頂だが、雲で展望はなかった。



はしゃぐM3三枝（右）とM1三谷（左）。



スノーシューにはまだ3人も慣れず、下りに苦戦。  
こける三枝。



こける三谷。そして私も…。



丸山から高見石までは、昨年9月の縦走で、バテバテになって脚をひきずりながら歩いたところ。今回は景色を楽しみながら楽しく歩くことができた。



15時、高見石小屋に到着。ここも通年営業。手続きをしてテントを張った。



丸山 (2330m)



高見石小屋

高見石小屋に到着。テントを張った。  
北八ヶ岳の多くの山小屋は、冬は小屋主催のスノーシューツアーを毎週末やっている。この日もツアーには20人ほど参加していたようである。